

ろうさいにニュース

浜松労災病院 地域医療連携 広報紙 第327号 平成23年11月号

■ 第10回 浜松労災病院 地域医療連携講演会を開催いたしました

第10回地域医療連携講演会を10月19日（水）に開催いたしました。

「肺癌の最近の知見について」— 呼吸器外科手術を中心に—

奥田呼吸器外科部長により講演が行われました。40名の参加をいただき、質疑応答も活発に行われ盛会に終了いたしました。ご参加いただきました先生方ありがとうございました。以下は、講演会の中で交わされた質疑応答の様子をご紹介します。

Q 胸腔鏡による手術や放射線治療、抗がん剤治療など、いくつかの選択肢を紹介していただきましたが、奥田部長が身近な人に勧めるとしたら、どの治療方法を選びますか。

A 症状の進行具合、年齢などによって異なりますが、適用範囲であれば迷わず「胸腔鏡手術」を勧めます。抗がん剤治療や放射線治療では完治は難しいというのが昨今の知見です。



Q 浜松労災病院の呼吸器外科の「売り」はなんですか。

A 当院は私と三野部長の2名体制で行っています。2名とも40前後の経験を積んできた医師ですので、症例に応じて工夫を凝らした治療ができると自負しています。

Q レントゲンの胸部写真では異常陰影が見つかりづらいとのことですが、疑わしい症状があればレントゲンを撮らずに紹介してもよいのでしょうか。

A ぜひご紹介ください。当院で精密な検査が可能です。

昨今、CTの性能は飛躍的に伸びており、1回呼吸を止めるだけでかなり広範囲の撮影ができます。しかも検査時間も非常に短時間です。

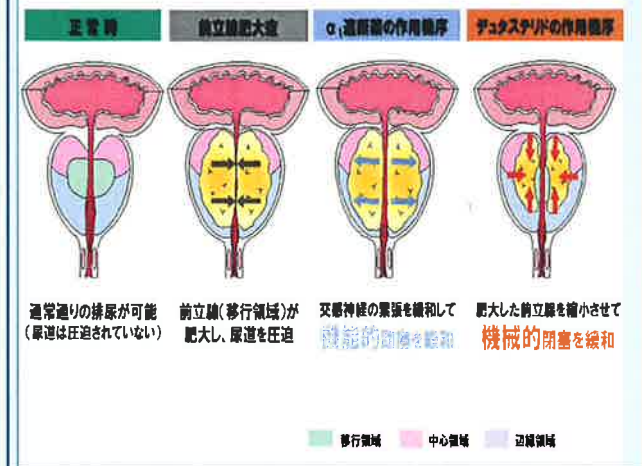
肺がんは早期がん、局所進行がんの範囲であれば手術適応となり、予後も期待できます。早期発見、早期治療が肝要です。

手術後のQOLは段違いです。これは間違いなく言えます。

(1) 薬物治療

これまで前立腺肥大症 (BPH) の薬物治療の中心は、前立腺部尿道に存在する α 受容体を阻害して尿道の緊張を緩める α 1遮断薬 (ハルナール、フリバス、ユリーフなど) でした。今でも第一選択ですが、強力な補助薬が出現しました。デュタステリド (アボルブ) です。これはテストステロンを強力なアンドロゲンであるジヒドロテストステロンに変換する 5α 還元酵素を阻害する薬剤で、その投与により24週で25%、52週で33%の前立腺体積の縮小が見られます。それに伴い、自覚症状、尿流量の改善も確認されています。更に、病状の進行による急性尿閉や、手術への移行の危険率を低下させることも示されました。即効性はないものの、前立腺「肥大症」という病気に対する、より根本的な治療として、すでに多くの泌尿器科医が使用しています。

α 1遮断薬との相違点



(2) 手術療法

薬物療法が無効な場合は手術を行うこととなります。近年、色々有効な薬剤の出現により、手術症例は前立腺体積が大きく、重症の傾向にあります。手術療法として現在も標準術式は、経尿道的前立腺切除術 (TUR-P) ですが、大きな前立腺に対しては出血の問題、電解質フリーな還流液の体内吸収による水中毒 (TUR 症候群) などがあり、今でも開腹手術を選択する施設は少なくありません。それに対し、近年、レーザーを用いた経尿道的前立腺蒸散術・核出術が開発され、大きな前立腺に対しても、生理食塩水を用いるため水中毒の危険性が低下し、比較的安全に手術を行えるようになりました。当院でも5年前よりホルミウムヤグレーザーを導入、200例近く経尿道的核出術 (HoLEP) を行って、良好な結果を得てきました。これまでであったら、開腹手術になっていたと思われる、前立腺体積100ml以上の症例も約5分の1の割合で見られています。静岡県下でHoLEPを行っている施設は少なく、おかげさまで近隣の様々な病院から大きな前立腺のご紹介をいただいています。今後ともよろしく願いいたします。

■新任医師紹介 (採用) 平成23年10月1日付

リハビリテーション科 入澤 寛

10月1日より着任いたしました入澤 寛と申します。浜松医大付属病院より異動になりました。浜松医大出身で浜松在住はもう15年以上になります。当院のリハビリテーション科は労働災害後の復職支援など他院ではなかなか見られない診療活動を行っており、日々患者さんから刺激を受けています。当科では脳卒中や運動器、心疾患のリハを中心に診療していますが、今後はこれまでの経験を活かして、脳卒中慢性期や脳性麻痺、四肢切断などの診療も行っていきたいと考えています。リハビリ診療を通じて少しでも地域の皆様のお役にたてればと考えております。何卒よろしく願いいたします



形成外科 尾崎 裕次郎

10月1日付けで着任いたしました尾崎裕次郎と申します。今までは大阪・京都を中心に働いていまして浜松での勤務は初めてです。浜松は気候が温暖であると聞き、また大阪と東京の中間ということもあり住むのに非常に便利な場所であると感じています。形成外科分野での専門分野は特に無く、これまで形成外科全般を診察してきました。卒後年数が短いため未熟な点が多々ありますが、日々精進しながら頑張っていきたいと思っています。何卒よろしく願いいたします。



■ 介護講座の開催について

家庭介護をしている方、家庭介護に関心のある方を対象に知識を学んでいただくため介護講座を医局・リハ科・看護部・栄養管理室により下記のとおり開催いたします。多数の参加をお待ちします。

日 時 11月28日(月) 13:30~16:00

場 所 6階 大会議室

内 容 (1)「食事の介助・介護」

(2)「口腔ケア」

(3)「ご自宅で行う床ずれの予防について」—こんな時どうするの

皮膚排泄ケア認定看護師

(4)「転ばぬ先の杖と知恵」

(5)「足腰を丈夫に保つためのちょっと役に立つ栄養のはなし」

リハ科部長 杉山 宏行

口腔外科医師 廻 俊一

Q & A —

藤本 依里

リハ科 鈴木由美子

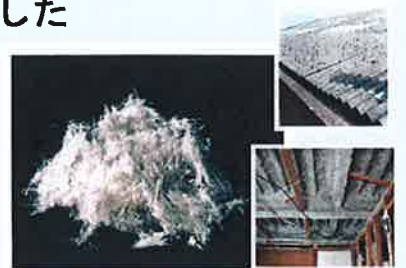
管理栄養士 堀 由香

■ 日本医師会認定産業医制度産業医学研修会が開催されました

石綿（アスベスト）関連疾患診断技術研修会（専門研修）が、平成23年11月6日（日）に国立病院機構近畿中央胸部疾患センター名誉院長坂谷光則先生、当院、呼吸器内科部長豊嶋幹生先生を講師に、30名の先生方が参加され開催されました。

内容は、講義形式による画像診断のポイント解説、実際の症例画像を用いた読影診断実習で、受講生の方は実際の画像を前に、質疑応答も活発に行われました。

この研修は、日本医師会認定産業医制度生涯専門研修2単位が取得できることから、毎年、参加希望者が多く、早くに定員が一杯になってしまうことから、ご参加できなかった先生方にはご迷惑をおかけしました。来年度も開催する予定ですので、早めのお申込みをお願い申し上げます。



■ 各診療科より

- ・消化器科は、しばらくの間非常勤医師のみの対応となります。当分の間、金曜日は休診になります。
- ・総合内科の診療は8:30~10:30までとなります

■ 地域医療連携室より

連携室では、紹介患者さんの待ち時間短縮を図るため、紹介元の医療機関様の事前予約をお願いしております。恐縮ですが、当院所定の紹介状様式をご使用頂き、予約決定後、FAXにて当連携室宛てに送信頂きますようお願い申し上げます。また、紹介患者さんには、紹介患者専用受付窓口⑨番を訪ねていただくようにご案内のほどお願い申し上げます。

TEL 053-411-0366 FAX 053-411-0315 担当 門本、鈴木

● 遠鉄バスをご利用される場合

- 浜松駅バス乗り場10番より、
- ・蒲小沢渡線(系統番号 71,74,78)
労災病院下車
- ・労災・篠ヶ瀬線(系統番号 85)
労災病院下車
- ・笠井線(系統番号 70)子安下車、
徒歩 10分
- ・磐田線(系統番号 80)子安下車、
徒歩 10分

● 東名高速道路をご利用される場合

- ・浜松 IC より 20分

● タクシーをご利用される場合

- ・JR 浜松駅より約 15分

独立行政法人 労働者健康福祉機構

浜松労災病院

地域医療連携室

〒430-8525

浜松市東区将監町 25

TEL 053(411)0366

FAX 053(411)0315

受付時間 8:15~18:00